

A nighttime cityscape with numerous illuminated skyscrapers and buildings, creating a dense urban environment. The lights are warm and yellow, contrasting with the dark blue of the night sky.

Why you should join **CAMPUS Asia Program**

林志洋

CAMPUS Asia 1期生 ('13-'16)

CAMPUS Asia プログラムは

「アジア」に関心のある学生のみならず、

**「グローバル」に活躍することを目指す公共政策学徒
にとって最高の環境である**

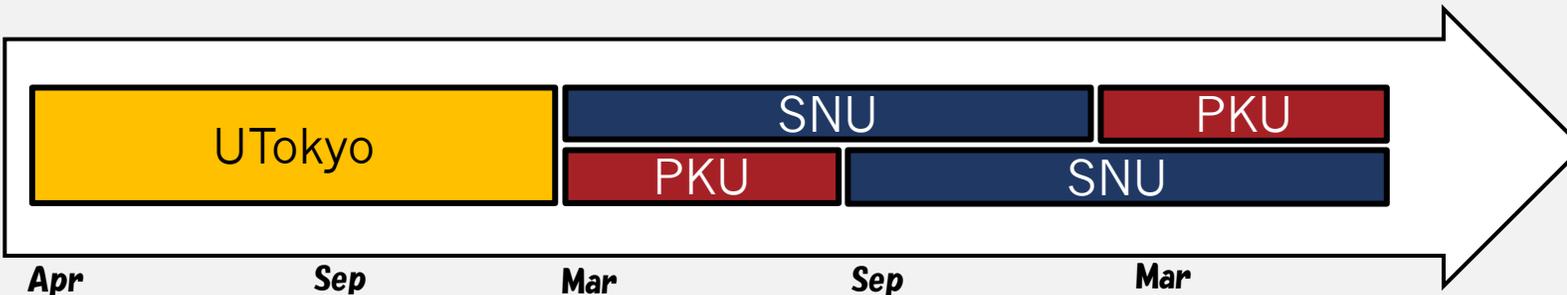
CAMPUS Asia プログラムとは

• 北京大学とソウル国立大学の両方に留学できるプログラム

- 交換留学だけでなくデュアル・ディグリー（DD）で東大と両方の学位取得が可能
- 2年間で卒業を希望する場合は、両大学で1学期ずつの交換留学（学位は東大のみ）にすることも可能
- ただし、プログラムのうまみを最大限に活かすにはDDでの留学を強くお勧めします

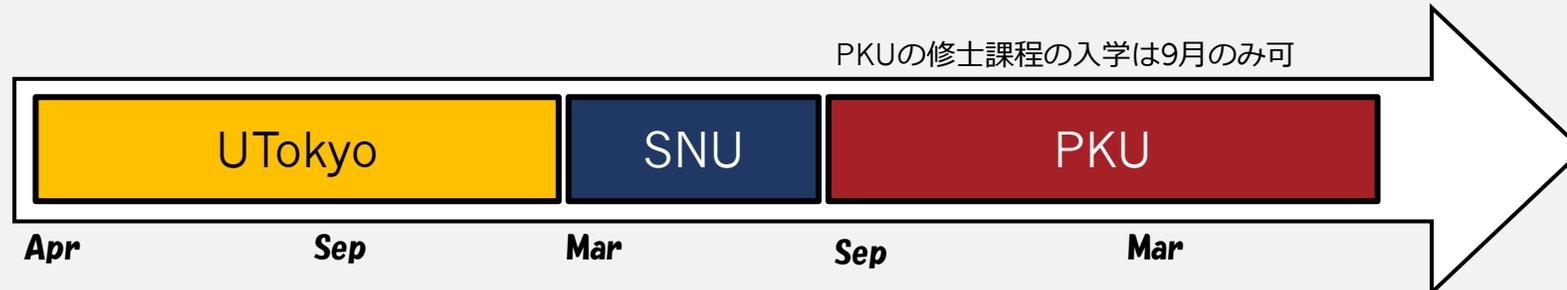
スケジュールのイメージ DD参加の場合

ソウル大
DD



東大・ソウル国立大学からの学位
& 北京大学からの修了証

北京大
DD



東大・北京大学からの学位
& ソウル国立大学からの修了証



私の CAMPUS Asia (CA) 生活

- 自身が設立したNPOを運営するため、**東大の在籍期間を1学期延長し、合計3年で卒業**（北京大DD）
 - 「**2年半でも3年でも大して変わらないや**」と思い、入学のタイミングで延長を決断
 - スケジュールに余裕が出来たので、興味があった**STIG (科学技術イノベーション政策における科学教育)プログラム**も修了

2013 Spring

Autumn

2014 Spring

Autumn

2015 Spring

Autumn

UTokyo

UTokyo

UTokyo

PKU

PKU

SNU

- 国際関係は留学先でやるからと割り切り、東大にいる間は**必修科目とSTIG科目に振り切った履修** (GraSPP内でも、他研究科でも、交友関係広がって良かった)
- **CAサマースクール**開催。中韓の学生を連れて福島にいたり、北京・ソウル両大学の先生の授業を受けたり、夜まで遊んだり(笑)
- **CA学生の主導**で東大にいる中韓の学生と八王子のセミナーハウスで合宿
- **放課後は自身のNPOの組織づくり**(自分がいなくても大丈夫にするため...)に専念

- 外国人用の英語コース(MPP-IP的な)なので**世界各国の学生と学べるのは刺激**になった(中南米やアフリカのプレゼンスが高い!!)
- 各学期1つずつ**中国人向けの講義も受講**。ちよくちよく死にながら語学を鍛錬
- 自費でも週2回、**外部の語学学校**に通う
- **指導教官と思想が合わず破門**というハプニング(後述)を乗り越え、**中国の経済発展とイノベーション政策**で修論を書く
- 休みの度に中国各地を旅行。**ド田舎の知らない人の家でご馳走になる**など満喫

- せっかくなので、ソウル大学の語学堂で**毎朝4時間、韓国語**の授業を受講(キツかったけど、それなりに使えるようになった)
- **弁護士の実務家教員**による国際取引法の授業を受講。**海外企業の買収契約**の内容などは**現在の仕事にも役立っている**
- ソウル大は特にCA生へのケアが手厚く、**遠足やイベント多数**。普通に楽しかった
- 他のCA生とは折に触れて日中韓各国で再会し、留学時期も人によってバラバラなので、**国境も学年も超えた謎の連帯感**が生まれる(GraSPPの後輩含め)



CAMPUS Asia を選ぶべき理由

① 政府・大学による手厚いサポート



写真: CA生のために企画された韓国・安東市へのエクスカーション @ SNU

② 就職でも武器になる強い差別化



写真: “ボスキャリ”での内定を祝ってNYで一人で食べたステーキ

③ 卒業後も続くCAコミュニティ



写真: 東京でのCAMPUS Asia アラムナイ / 在学生パーティ (毎年開催)

④ 中国・韓国の「リアル」を感じる重要性



写真: 春節休暇で訪問した苗族自治区での新年を祝うお祭り @PKU



CAMPUS Asia を選ぶべき理由：①政府・大学による手厚いサポート

- CAプログラムは、日中韓の国際関係を改善すべく**政府間合意によって設立された経緯**があります
- この趣旨に沿うべく手厚いサポートがあり、**充実した留学体験が低負担で可能な点**は欧米留学にない強みです

奨学金制度の充実・金銭的負担の少なさ



ソウルのTCS(三国協力事務局)で開催されたCA卒業生のフォーラム

日本・中国に住む卒業生の渡航費・滞在費もサポートいただいた

- 日本政府の予算・中国政府奨学金・韓国政府奨学金によって、**学費・渡航費・生活費が概ねカバー**される上、**課外での企画**に予算が付くこともあります
- そのため、**金銭的負担は欧米への留学と比較すると圧倒的に少ない**です
(むしろ生活費が出る分、留学しないよりも楽でした)

豊富な体験プログラムの実施



PKU留学中にAPECが北京にて開催

日本青年代表としてCA留学中だったGraSPP生4名を選んでいただいた

- **三か国の相互理解**という目的の達成には、大学院での授業だけでは足りません。そのため、CA生を対象として**課外アクティビティも積極的に実施**されます
- **研修旅行やサマースクール**が開催されたり、通常の授業期間中も**CAラウンドテーブル**で議論したりと、CA生としての役割を考えさせられる機会は多かったです



CAMPUS Asia を選ぶべき理由：② 就職でも武器になる強い差別化

- CAMPUS Asia 選択時の**最もよく聞く懸念点は就活や公務員試験への影響**ですが、中国・韓国への留学での体験や学びを説明することが出来れば、逆に面接官にも面白がってもらえ、**そのほかの就活生にはない武器**になると感じました。**公務員試験の勉強を両立**させている人も少なくない印象です
- 実際、CAの卒業生は、**官公庁から民間企業、メディア、NGOに至るまで、幅広い分野で活躍**しています
- 私自身は、最終的には「**ボスキャリア**」で内定をもらった会社に就職しましたが、**一時帰国中の企業イベント**や、自分から**直接履歴書とCVを送る**など、それ以外の方法でも内定をもらうこともできました
(あと、PKUのカフェで隣にいた日本人があるメガベンチャーのCFOで、意気投合して内定をもらうという妙な偶然もありました...)

日本人 CAMPUS Asia 生の主な進路(抜粋)

*参考: 0-2期生の就職先

官公庁・独立行政法人



日系民間企業



外資系民間企業



メディア・NGO・その他



その他、起業や、ソウルで韓国企業に就職など...



CAMPUS Asia を選ぶべき理由：③ 卒業後も続くCAコミュニティ

- プログラムの充実などのお陰もあり、**CAMPUS Asiaには国境・学年も跨いだコミュニティが形成されています。**これは個人の留学に終始してしまいがちな欧米への留学にはない大きな特徴です。
- 修了後も、毎年一度は東京にいる卒業生・在学生の交流会を開催。CAコミュニティは、**個人的な雑談も、仕事の悩みも、国際関係に関する議論も、私にとって何でも話し合える貴重な「ホーム」**だと感じます。



(▲写真)

各国のサポートの元、卒業後も国を跨いで意見交換する場が設けられ、2019年もソウルで卒業生フォーラムが開催されました。修了後も「公共政策」について考え発信する機会を持てるのはCAならではの感想です。

※ 旅費・滞在費も大学や政府の予算でカバーしていただき、「卒業生にもこんなに手厚いプログラムは他にない」というのが正直な感想です。



CAMPUS Asia を選ぶべき理由：③ 卒業後も続くCAコミュニティ

- 2019年にソウルで開催された CAMPUS Asia Alumni Workshop の様子 ([動画リンク](#))



CAMPUS Asia を選ぶべき理由：④ 中韓の「リアル」を感じる重要性

- また、意外にメディア以外で触れる機会がない**中国・韓国**の「リアル」について**生身の体験**をすること自体が、**日本人として公共政策を学ぶ私にとって、大変貴重な経験**だったと感じます



北京大に留学していた韓国・シンガポール・アメリカ人の友人との旅行にて (@山西省大同)



ソウル大に留学中、CA生のために企画された韓国国会への見学にて

CAMPUS Asia を選ぶべき理由：④ 中韓の「リアル」を感じる重要性

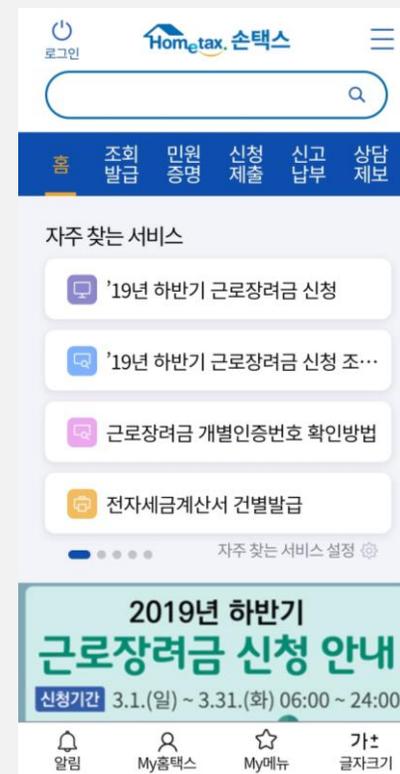
- 歴史問題・慰安婦問題といった**国際問題の複雑性**はもちろん、WeChatやアリババに代表される**技術の社会実装が世界最速**で進む中国、**デジタル産業やコンテンツ産業の育成**に成功した韓国で生活をする中で、**学べることは多かった**です

北京で仲良くなった同級生の**韓国の外交官2人**と旅行中、火鍋を食べながら**慰安婦問題に関する議論**が始まり、深夜まで語り合ったのは大切な思い出になった。**自国の視点だけでは見えないものがたくさんある**



中国では、**WeChat**だけであらゆるサービス（交通・飲食・公共など）が完結するのは勿論、最近では**コロナウイルスの関連情報も市政府から公式で配信**されている

韓国では、**税金処理などもスマホで完結**。コロナ対策では**感染者の位置情報や支払い履歴による行動記録も公開**され、封じ込めに効果があった一方、政策における**プライバシーの議論**に

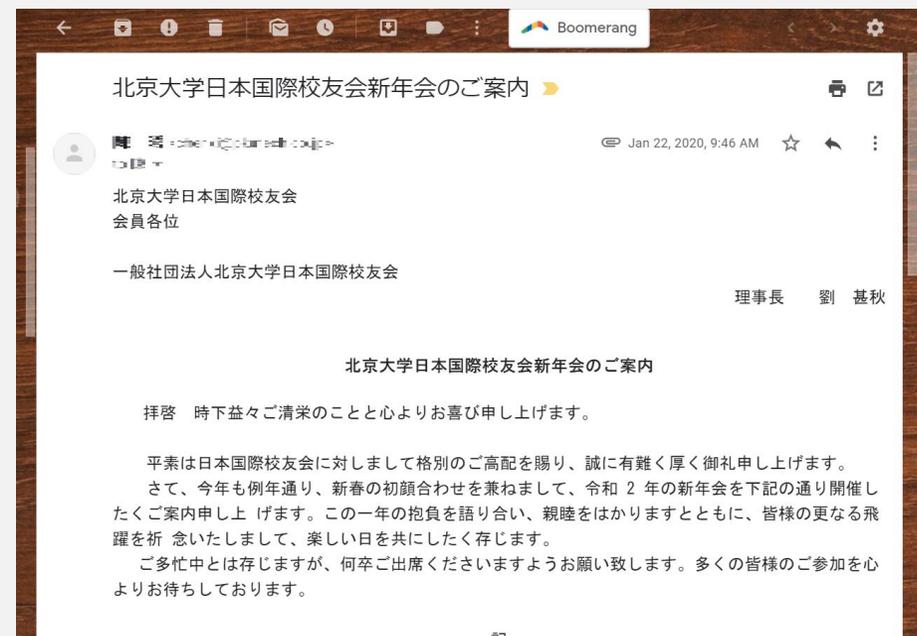


CAMPUS Asia を選ぶべき理由：④ 中韓の「リアル」を感じる重要性

- また、卒業後、グローバルの舞台では「中国と韓国の大学院に留学していた」は非常に良いネタになります
- 中国・韓国出身の人と出会う確率は非常に高く、留学の話をするとお、「お、マジか！」と良い驚きに始まり、グッと精神的な距離が縮まって、腹を割って話せるようになる、という実感があります
- 他地域の人からも「めっちゃ面白いじゃん！」という反応で、「日本人なのにめっちゃグローバルなやつ」と覚えてもらいやすいです。ここでも、アジア複数国への留学だからこそそのいい差別化が効いています



日本代表として選出された世界経済フォーラム(ダボス会議)にて、他の東アジア(モンゴル・中国・韓国)の参加者と。



北京大学の卒業生ネットワークは日本でも活発に活動していて、中国企業や政府関連の「偉い人」とも「北大のよしみ」でお話する機会があります。(まさに同胞という雰囲気)

CAMPUS Asia を選ぶべき理由：④ 中韓の「リアル」を感じる重要性

何より、「うまい!」「美しい!」最高の体験。

北京大の食堂のクオリティは(良い意味で)半端ないです...笑



広蔵市場のユッケ(ソウル)



秋の京福宮



中国・四川省の世界遺産「九寨溝」



ソウル大入口駅付近の
お気に入りのタッカンマリ屋さん



私の北京でのソウルフード
「マーラータン」



中国・青海省のチベット族の村にて



成都のパンダ



CAMPUS Asiaプログラムは

「アジア」に関心のある学生のみならず、

**「グローバル」に活躍することを目指す公共政策学徒
にとって最高の環境である**

• MPP/IP以外の学生も参加は可能か？

- はい、可能です。修了要件の都合で、ダブルディグリーの場合は2年時にMPP/IPへの転コースが想定されます
- 特に、2021年春に北京(1学期)、秋からソウルでDD(2学期)というコースは定員にまだ余裕があり狙い目のこと (GraSPPスタッフ談)

• 日本人以外の参加は可能か？

- 基本的には日中韓の人材交流を主眼としたプログラムですが、定員次第ではその他の国籍の学生の参加も認められる場合があります。ただし、韓国・中国では奨学金や寮の手配が受けられない可能性があります。詳細はGraSPP スタッフまでご確認ください

• 英語はどれだけでできなければいけないの？

- 英語で学位を取得する以上、最終的にはある程度の英語力は必要となります
- ただし、参加学生の多くも非英語圏の出身であるため、実際の国際社会に近い「ノンネイティブとして実用的なレベル」で英語が使えることが重要であると感じました
- 過去には、実際に留学してからTOEFLを再受験し修了要件を満たした卒業生もいます

• 中国語・韓国語を学んだことはないけれど大丈夫？

- はい、問題ありません。プログラムは英語で完結するため、中国語や韓国語の事前知識は必要ありません
- ただし、各言語を習得したい方には、そのための学習・練習の機会が豊富に用意されています

• 中国の大学って実際どの程度思想の自由があるの？

- (あくまで個人の見解です) **先生の中には様々な思想の方がいる**という印象で、その点は日本と何ら変わりはないと思いました。北京大の国際関係学院は比較的リベラルな学風といわれ、先生方の中には**政府に対してかなり踏み込んだ指摘をする人もいて驚きました**
- 学生として意見を発表するときには、多くの場合ただ(欧米の物差しに従って)中国を批判することは良く受け入れられず、中国側の事情など多面的な背景を考慮し、**バランスの取れた意見を述べる**ことが求められていたように思います。
- ただし、これは**公共政策という多くのステークホルダーを巻き込んだ領域を学ぶ私たちとしてはある種当然持っているべき視点**であり、自分の思考を試すよいトレーニングになったと感じています。
- また、「様々な思想の先生がいる」とはつまり**中国への批判に対して非常にセンシティブな方もいらっしゃる**ことを意味しており、私の場合は修士論文の指導教官を変えざるを得ない事態になりました。少しこの先生が例外的だったのと、**それも含めて中国の「リアル」を体験できた**ということで、今ではポジティブに捉えています。
- 当時の顛末と考察は当時[note](#)にまとめていたので、もしご興味があればご覧ください

(参考) 自己紹介：林 志洋 / Sho Hayashi



新卒は戦略コンサルへ

- 東京大学公共政策大学院を修了後、**外資戦略コンサル会社A.T. カーニー**入社。
東京・ワシントンDCオフィス・NYオフィスにてコンサルティングを経験
- 製造業・消費財・金融業界において**新規事業立案、海外市場進出等**を担当



その後、ベンチャー界隈へ

- 2018年よりEDGEofの立上げに参画。**新規事業創出・スタートアップ支援に従事**
 - 海外スタートアップの日本進出**を支援。
イタリア政府の案件を受注し、8社のイタリア企業を受け入れたほか、
米国スタートアップの**日本JVの執行役員**に就任（**脳科学マーケティング**）
 - 自動車関連企業の新規事業立案（**自動運転車の時代の体験づくり**）
 - 渋谷区宮下公園の再開発構想（**イノベーターと共創するまちづくり**） など



相談その他、
いつでもご連絡
ください！

[E-mail]

sho@shohayashi.com

[Facebook]

[Sho Hayashi](#)

企業の外で個人でも活動

- 学生時代より一貫して「**起業家教育**」「**新規プロジェクト立ち上げ**」をテーマに活動
 - NPO法人Bizjapan** ファウンダー・代表理事（2011年～）
 - 2018年より**ハーバード経営大学院（HBS）**のTeaching Fellowを担当
 - 2020年より**経済産業省「研究開発・イノベーション小委員会 産学若手ワーキンググループ」**委員
 - 長野県小布施町**における大企業人材向け人材育成プログラム「**OBU-SEEK**」を設計・ファシリテート。**総合戦略コーディネーター**に任命
 - 世界経済フォーラム**による次世代リーダー「**Global Shapers**」に選出 など



CAMPUS Asia